

CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2017年10月20日発行 編集・発行：中央教育研究所(株) 〒730-0013 広島市中区八丁堀15-6 <http://www.chuoh-kyouiku.co.jp/>



中土井鉄信の「地域一番の繁盛塾になるための最強法則」 vol.68

＜有限な経営資源を活用する！＞

2001年に創業して早16年以上、今まで数多くの学習塾を再建してきましたが、今回は、回復の仕方について書きたいと思います。

回復の仕方は2種類で、いや厳密に言えば、3種類で、V字回復出来る塾と緩やかにしか回復していかない塾、そして、どうしても回復しない塾があります。

まず、私が目を付けるのは、その塾の持っている経営資源です。お金だけではなく、その塾の塾長が持っている学習塾運営のスキル、経験値、雰囲気、生徒や保護者に向き合う態度、そして、塾自体の地域のポジショニング、今までの進学実績等々、そして、社員がいる場合は、その社員の資質、スキル、雰囲気等々です。

V字回復出来る塾は、上記の経営資源をしっかり持っている塾です。しかし、その資源をどう使うかが、よくわからなくなってしまっているというだけの塾です。このような塾の再建は、非常に速いものです。経営資源を、利便性・効果性・投資性の3つのキーワードに整理して、どこから改善していくかを決定し、塾長や社員が、どういう行動なら出来るのかを勘案して、計画を立て、実行をチェックするだけです。潰れそうな塾の場合は、厳しくチェックをします。なぜならば、後がないからです。

例えば、3年前に私どもの顧問先になった大阪の塾は、まさに、このV字回復した塾ですが、塾長と社員の二人のポテンシャルは非常に高く、そのポテンシャルを顕在化させれば、生徒は呼び戻せるなと踏んで、色々な提案をしました。例えば、入口設定を作って、生徒を呼び込みました(試験対策の無料体験の期間を明確に設定して集客しました)。また、利便性の向上がすぐにわかるコースの変更をし、在籍生が講習を受講しやすくし、更に個別指導の提案を今まで以上に強くしました。その結果、ピーク時の半分まで減っていた在籍生数が、半年で、145%以上伸びました。今では、3年前の在籍生数に比べて3倍近くなり、社員も2人増えて総勢4人になっています。

それでは、緩やかにしか回復しない塾は、どういう塾なのでしょう。それは、塾のスキルが未熟で、生徒や保護者との

向き合い方も塾人らしくなく、そして塾のスタンダードを塾長が知らない塾です。

こういう塾の場合、提案を一つに絞って行きます。いっぺんに色々言っても、すぐには何も出来ないのので、一つの提案をクリアしたら、その次にレベルの違う提案をするというように、徐々に塾の力を上げていくようにします。

例えば、某FC塾を運営していた塾長は、出来れば10年以内に10校舎を持ちたいということで、6年前、ギリ貧の生徒数を抱えて私どもの顧問先になりました。その前に、1校舎の生徒数を50名以上にするのが先決だということで、翌年の3月からは、FC契約を解除して、私の設計で個別指導塾をスタートさせた結果、今までの2倍の生徒になってスタートを切りました。20数名だった生徒数が40数名になったのです。そこから、経営資源である塾長の塾人としての資質を高め、3年目にやっと生徒数が70名を超え、一か月の売上も150万円を超えたので、2校舎目を出しました。2校舎は、開校4か月で60名を超えました。その翌年3校舎目、そして、今年4校舎目を出すまでになりました。この塾は、塾長の塾力がある程度高まるまで事業拡大をさせませんでした。それは、多店舗展開が出来る経営資源にまでなっていなかったからです。多分、この塾は、多少の揺り戻しはありますが、あと4年で10校舎にはなるのではないのでしょうか。

最後に、回復しない塾についてです。最大の経営資源は、塾長の仕事に対する情熱です。ここが薄いと苦難に陥った塾は、回復をするのが難しいのです。経営資源を使う資源(エネルギー)がない！ということになりますから。ここは、いくら頑張っても、良いところまで行くのですが、すぐに戻ってしまいます。

私は、この手の塾の再建を16年間で5社ほどしましたが、全て失敗でした。力足らずで、塾長の心に火を点けることが出来ませんでした。

実は、回復するか、大きくなる塾と回復しないか、縮小してしまう塾は、経営者の緊張感とか危機感とかモチベーションの違いによるところが大きいものです。

明日はなるだろう。いつもそう考えている経営者は、緊張感が違います。危機感も当然違ってきます。そして、一番違うのは、全ての起点を自分において、他人や環境の所為にしなないということです。適切な緊張感・健全な危機感を持っているのです。しかし、回復しない塾は、ここが圧倒的に足りません。全て、他人の所為にしてしまうのです。

皆さんの塾を右肩上がりするには、皆さんの塾が持っている経営資源をしっかりと自覚することです。そして、その経営資源を利便性・効果性・投資性の3つのキーワードで整理し、生徒を増やすための入口設定をし、生徒の心理的コストを下げて、接点を持つことです。今ある皆さんのコンテンツを上手く活用する、ここにつきます。そして、適切な緊張感・健全な危機感を持つことです。ぜひ、皆さんが持っている経営資源を明確にし、どう使うか、考えてみてください。

【編集後記】【中土井流「経営勉強会」参加受付中！】

10月29日(日)横浜、11月日(日)大阪にて、「経営勉強会」を実施いたします。

第2回目となる今回のテーマは「来期の募集と設計」。

中土井式の塾経営術をギュッと詰めた1日です。ぜひ、お申し込みをお待ちしております。まずは、以下のURLをご覧ください。

<http://www.management-brain.com/keiei-ippann.pdf>

詳細は、弊社(MBA)までお問い合わせください。

お問合せはコチラ→TEL045-651-6922

Mail: mailadm@management-brain.co.jp

合資会社マネジメント・ブレイン・アソシエイツ
教育コンサルタント 中土井鉄信



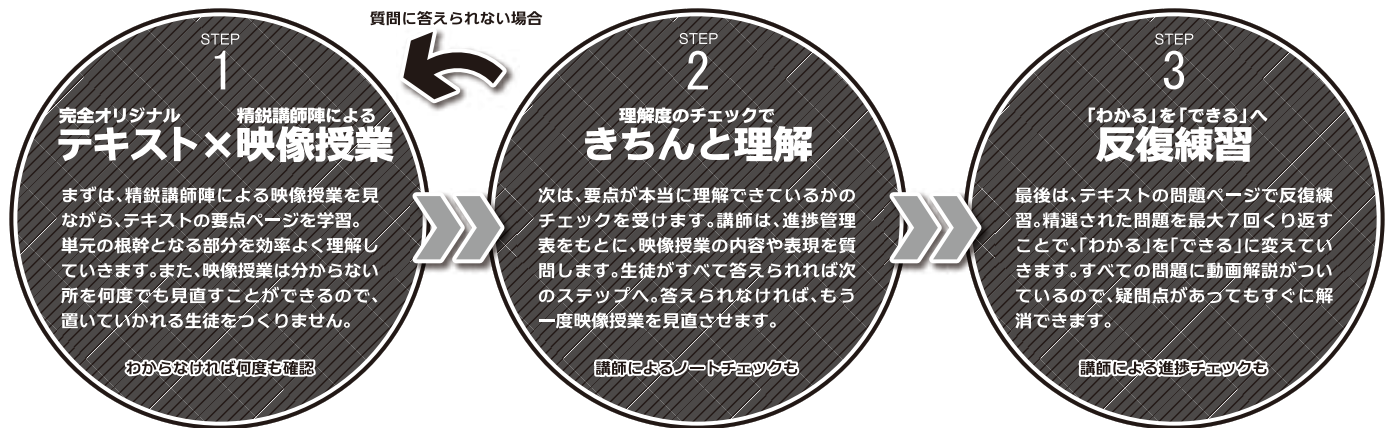
Change your life.

集団個別指導型システム TsuX (ツークス)

勉強が苦手な生徒でも
「成績が伸びる」学習法。

名前の由来

偉大な教育者、吉田松陰にあやかり、松陰の言葉「心ある立派な人の務めは、自身の身を修め、まごころを尽くすことにある」から命名。そこに「学び尽くす」「理解し尽くす」の意を込めました。また、アルファベットの「X」には「最後を締める」といったニュアンスがあるため、ローマ字表記で「尽くす」の意を強調させています。



POINT 1 集団個別指導を可能にする

5教科すべてオリジナルテキスト

1.Repeat	徹底した反復練習	●適切な問題量・設問数 ●厳選された質の良い問題
2.Speed	時間を意識させる	●大問1つが5分程度で解ける問題 ●リズムにのれる難易度
3.Simple	多重の意味を持たない	●1つの問題に多くの要素を盛り込まない ●基礎・基本が身につく問題 ●スモールステップ

POINT 2 テキスト制作者が映像を監修

全要点、全問解説の映像授業

すべての要点・問題ページに精鋭講師陣による動画解説がついています。テキストを制作した講師が解説を行うため、問題を読み解く視点、解法の流れ、関連知識といった入試に必要な力を養うとともに、細かなテクニックもテキストの内容にあわせて説明していきます。

学習塾だから成績が伸びる「型」があります。

※詳しくはお問合せください。

数字でみる学習塾経営・業界のトレンド Vol.32

異例ずくめの総選挙になりました。

通常国会の閉会までの過程、閉会後のモリカケ・イナダ騒動、開会式も所信表明もない臨時国会冒頭解散、その後の田舎芝居以下のドタバタ劇をみていると、二世三世のお坊ちやまと策を弄する策士と寄りば大樹を決め込む日和見たちが、ここまでこの国の政治をダメにしてしまったのかとため息が出るばかりです。

が、それもこれも彼らを甘やかしてきたわれわれの責任であって、誰を恨むというわけにもいきません。

それはともかく今回の選挙後、どこが勝ってもわれわれにとって1つだけ、朗報というべき施策、「幼児教育の無償化」が実行に移されることになっています。

たとえば自民党の選挙公約にはこうあります。
「幼児教育無償化を一気に加速します。2020年度までに、3歳から5歳までのすべての子供たちの幼稚園・保育園の費用を無償化します。0歳から2歳児についても、所得の低い世帯に対して無償化します。」

公約らしくちょっと見、いかにもなにもかもがタダになるかのように読めますが、もちろん、そうではありません。「費用」が意味するのは「保育料・授業料」のことで、それ以外に必要な給食費や補助教材費、他の納付金や制服代・交通費などは含まれていません。小中学校等、とっくの昔から無償化されている義務教育と同じです。

とはいっても、保育料・授業料だけでも実は莫大な額になります。

2014年の文科省「子供の学習費調査」によれば、公立幼稚園の年間授業料の平均は64,357円、私立幼稚園は209,277円でした。

また、12年の厚労省「地域児童福祉事業等調査」によれば、認可保育所の月額保育料は「2万円以上3万円未満」が31.9%と最も多く、「1万円以上2万円未満」が次位で23.6%でした。

これは要するに、3歳児～5歳児1人当たり年間おおよそ15万円程度、家計に余裕ができることになります。

3歳児～5歳児は現時点で全国に300万人ほどいますから、総額では4,500億円ということになります。

この浮いた4,500億円はどういう遣われ方をすることになるんでしょう。

根拠も何もありませんが、半分は「家計の足し」や「貯金」に回るとしても、もう半分は子どもの学校外の教育費ということになるような気がします。

となれば、われわれに直接かかわってくる学校外教育費は2,250億円。

10月5日に公表された矢野経済研究所のデータによれば、16年度の「学習塾・予備校の市場規模」は9,620億円でしたから、2,250億円がいかに大きな金額かお分かりいただけるでしょう。

余談ですが、株式市場はすでにこれを見込んで、幼児教育関連企業の株価は沸騰しているようです。

ハゲタカの皆さんは目端が利きますね。

では、どんな幼児教育が？

同じ10月5日にリクルートが発表した『ケイコとマナブ』の「子どもの習い事ランキング」(17年9月調査/未就学児の母309人が回答)に、「今後、習わせたい習い事ランキング」というのがありましたので、紹介しておきましょう(複数回答)。

【今後、習わせたい習い事ランキング】		
1位	水泳	34.3%
2位	英語・英会話	29.8%
3位	書道	20.7%
4位	ピアノ	18.4%
5位	そろばん	14.2%
5位	学習塾・幼児教室	12.0%
7位	ダンス	11.7%
8位	体操	11.3%
9位	バレエ	6.1%
10位	空手	5.8%

プログラミング関係が入っていませんが、英語・英会話、書道、そろばん、能力開発、プログラミングなど含め、普通の塾で何ができるか、早急に研究しておく必要があるんじゃないでしょうか。



公立中高一貫校の6年間では、21世紀のグローバル社会で必要とされる資質の土台(ベース)となる部分の構築を行っています。そのために適性検査では、受検者が土台となる部分の構築に耐えるかどうかを見ようとするようになります。相当程度の思考をさせることになりますから、答えがすぐには見えてこない(問いと答えの間に距離がある)問題が少なくありません。これが割とたやすく方針が定まり、正解に至る小学校のテスト問題とは違うところです。今一度、適性検査に臨むためにはどのような準備が必要なのか考えてみることにしましょう。

まず、基礎学力・基本的知識そして正確な計算力は必要不可欠です。漢字の書き取り、計算演習といったドリル演習は毎日欠かさず検査の日まで続けましょう。私立中学受験ほどの膨大な知識、素早い計算力・情報処理能力は要求されませんが、小学校での学習だけでは通用しないことは確かです。答えだけではなく、解法のあり方を丁寧に示すことも求められますので、課題(問題)の条件や情報を読み解き、解決に向けたプロセスをきちんと示したり、自分の意見としてまとめる練習にも取り組んでおきましょう。正解が一つと限らない問いが課されることもありますから、柔軟な発想が求められます。そのためにも、自分の言っていること、自分の主張の道筋を考え考え進んでいく習慣も大事になってきます。

物語文を読んで、その背景にあるのはどのようなことなのかということを理解したり、問題文を読んで、何を問われているのかということ判断できる文章読解力を鍛えておくことも必要になってきます。これこれしかじかと他者(適性検査では採点者)に自分の意見をきちんと伝えなくてはならないわけですから、文章構成力を磨く訓練も必要です。来春の受検生であれば、あれもこれもと取り組んでいる時間はありませんので、公立中高一貫校の過去問演習を中心として、量より質と、この問題では何が問われているのかをじっくりと考えること、基本的知識を活用して解決していく習慣を磨いていくことが大事です。

どんなことにも好奇心を抱いて臨むこと、興味を抱いたことを話題にして話し合うこと、最後はそれをかならず文章にすることを忘れないでください。いろんなところで『重大ニュース』

などと題して、世の中で起こった事件・事象をテーマとしている書籍が年末にかけて出ます。こういう書籍を利用して、話し合いや自分の意見としてまとめる機会として活用してみるのもいいでしょう。子どもは大人と違って、短い時間でも驚くほど伸びるものです。お子さんが誰かと話し合ったり、自分の意見としてまとめるという経験は、適性検査に臨む時には大変役に立つのです。

お子さんが5年生より下ならば、本を読む習慣をつけること、小学生対象の新聞などを読むこともやってほしいことです。ニュースで話題になったことなどについて、お子さんに自分の意見はどうなのかということ常意識させ、他者(友だちや家庭であれば保護者)に伝えるように、話してみる。次にはメモの形でいいのでまとめてみるという練習をこなしていくのです。最終的には、他者に伝えるためにはどのような文章構成にすればいいのかを考えなくてははいけませんが、それは受検年になって取り組みばいいでしょう。

世の中で起きる様々な事象に対して、こういうことは自分には関係ないという姿勢ではなく、自分にどのように関係しているのだろうかという姿勢で興味を持って見ていくようになってもらいたいものです。そういう姿勢で臨むと、世の中への興味が増しますし、自分の考え方も磨かれていくでしょう。